

## 0330 | 東洋美術史

2 単位 (通信授業 2 単位)

朴亨國教授、萩原哉講師

## 授業の概要と目標

東洋とは、西アジア・中央アジア・南アジア・東南アジア・東アジア地域を総じている。本授業では、西アジアを除くそれら諸地域の美術史を対象とする。課題 1 では、東洋（日本を除く）で生み出された美術作品を通して、美術史の研究方法を学ぶ。課題 2 は、課題 1 の応用である。東洋と日本を結ぶアジア的な視野に立ち、造形活動の交流と展開について理解を深めることを目標としている。

## 課題の概要

## ○通信授業課題 1

①～⑥のテーマのうち いずれか一つを選択し、作品 3 点以上を具体的に取り上げて、美術史の流れを論じなさい。

① 仏像の発生及び初期仏像の様式変化について —マトウラー仏とガンダーラ仏を中心に—

② アンコール期の寺院建築とそれにみられる浮彫彫刻について —バンテアイ・スレイ、アンコール・ワット、バイヨンを中心に—

③ 北魏から唐に至るまでの仏像の様式変化について —雲岡石窟と龍門石窟を中心に—

④ 統一新羅時代の全盛期における仏教彫刻について —仏国寺と石窟庵を中心に—

⑤ 五代～北宋時代の水墨山水画について —李成・范寛・郭熙を中心に—

⑥ 14～15 世紀初期の中国の青花について —元・洪武・永楽を中心に—

## ○通信授業課題 2

東洋において制作された美術の中から、任意に 1 点の作品を選択し、美術史の視点に立って作品を考察せよ。さらに、その作品が日本美術に与えた影響について考察せよ。

\* 課題については、学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

教科書を使用する。課題 2 のテーマは、教科書の中から選ぶこと。

## 成績評価の方法

## ○科目試験

教科書から出題（論述・記述式）。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得を希望する者は 1～3 年次に履修することが望ましい。

## 教材等

教科書：朴亨國監修『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局 2016 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

## 留意事項

この授業は、受講者が『造形文化科目・教職に関する科目学習指導書』と教科書の序章に書かれている内容を理解していることを前提として成り立っている。したがって、学習方法及び課題の目的と考察方法について、理解していないレポートは、採点の対象とならない。